

講座

公開講座「地域の子育て支援」

—いっしょにあそぼう—

University extension : Support for child raising in the community

— Let's play together —

高瀬敏幸¹⁾、國末和也¹⁾、野村和樹¹⁾、中松潔子²⁾

Key words: 子育て 地域支援 発達 発達障害

1 はじめに

昨年（2006年）度、本学では地域の方々を対象に家庭の中で養育上「気になる」子どもとその養育者への支援を目的とした公開講座を企画し3回実施した。この企画はリハビリテーションを専門とする大学として、「子育て」というキーワードで地域の方々への支援を行う最初の取り組みであった。この地域の子育て支援の取り組みは、今年度も継続して行なった。昨年度の取り組みは講演、パネルディスカッションなど聞いて学ぶことを柱にした企画であったが、今年度は養育者である父親・母親の養育力を高めることを目的に、子どもの大好きな絵本・手遊び・リトミック遊びを通して、直接父親・母親が子どもと関わる機会や場面をできるだけ多く設定し、実際の場面で本学の教員が指導する方法を試みた。

子育て支援を柱に、養育者に子どもへの具体

的な接し方、理解の仕方を子どもの好きな遊びを中心に伝えることは、大学の地域貢献として有意義な事業と考える。今年（2007年）度は、公開講座「子育て支援」—いっしょにあそぼう—の取り組みを4回企画し、3回実践したので以下報告する。

2 公開講座「子育て支援」—いっしょにあそぼう—の企画の概要

2.1 目的

- ・地域の方に対し本学教育の理解を図ると共に、地域支援センターとしての役割を担う。
- ・就学前児童および障害を持つ児童を対象に遊びを通して子育て支援を行う。
- ・子どもの遊ぶ姿を養育者と一緒に見ることにより、生活場面において子育てに関わる不安を軽減するとともに、相談業務を実施する。必要に応じて、別途相談日時を設け個別相談を行う。
- ・保護者が子どもを理解することを援助し、保護者同士のつながりを深める。地域の子育てをする上で生じる不安や悩み、養育者の健康維持などに対して相談や支援を行う。

1) Toshiyuki Takase
大阪河崎リハビリテーション大学
リハビリテーション学部

E-mail: takaset@kawasakigakuen.ac.jp

2) 医療法人河崎会 水間病院 言語聴覚士

2.2 対象

子育てをしている父母及びご家族、療育・教育関係者

2.3 取り組み

公開講座「子育て支援」—いっしょにあそぼう—の取り組み経過は以下の通りである。

第1回 7月18日(水)

第2回 8月21日(水)

第3回 12月13日(木)

第4回 2月20日(水)

※毎回、13時受付、13時30分～15時まで子育て支援プログラム、希望者は15時から個別相談実施

3 第1回公開講座「子育て支援」—いっしょにあそぼう—の取り組みについて

3.1 第1回公開講座のプログラム

第1回 7月18日(水)に行ったプログラムは以下の通りである。

(1) はじめのあいさつ

あくしゅでこんにちはの歌

「てくてく てくてく歩いてきて あくしゅでこんにちは ごきげんいかかが」

*リーダーの指導で、振りもつけて子どもと母親が歌う

(2) 歌ってあそぼう(手遊び)

1) あたま かた ひざ ボン(ねらい:ボディイメージ)

2) 手をたたきましょう(ねらい:表現)

3) 大きなくりの木の下で(ねらい:動作模倣)

4) やまごやいっけん(ねらい:動作模倣)

5) 一本橋こちょこちょ(ねらい:感覚遊び)

(3) 絵本で遊ぼう

1) いろんな音を出してみましょう

(使用する絵本) 五味太郎、偕成社「ほほぼほ」
五味太郎、文化出版局「ぐうぐうぐう」福音館、「こけこっこう!」

*先にリーダーが読みの手本を示し、その後母親に実演してもらう

2) いっしょにかけ声をだしてみましよう

(使用する絵本) 福音館、「おおきなかぶ」

(4) 休憩

(4) 身体を動かしてあそぼう(リトミック)

1) 「カメ」(ねらい:四ツバイ移動)

2) 「ライオン」(ねらい:高バイ移動)

3) 「トンボ」(ねらい:ストップモーション)

*ストップモーションの意味:曲が止まると動きをやめ、曲が始まると動く

(5) おわりのあいさつ

「あくしゅでこんにちは」の歌で終わる

3.2 プログラムのねらい

参加者は初対面の方が多いので、親子で握手したり、近くにいる人と握手してなごやかな雰囲気の中でプログラムをスタートできるように考えた。

手遊びは、リーダー役の手本に従い動作まねを子どもがすることで、しっかりみる活動、親子が一緒に参加する気持ちをふくらますように配慮した。またその場の雰囲気、キーボードの演奏スピードを変えたり、音の強弱を変えたりした。

絵本では、リーダー役がまず最初に絵本の実演を行い、母親を指名して子どもの前で読む活動を通して本読みに自信を持ってもらおうと考えた。

休憩時間にはあらかじめ用意した絵本を自由に閲覧してもらい、親子で絵本にふれる時間と場所を設定した。

3.3 実施場所、実施時間

本学 2 号館 1 階集団療法室、13時30分～15時

3.4 参加者数

9 組23名（大人 9 名、子ども14名）、その他見学者が 1 組（大人 1 名、子ども 1 名）

3.5 実施後の反省

第 1 回目のプログラム実施後の反省会で出た意見は以下の通りである。

- (1) 親が主役になる場面が少なかった。今後、親力を育む内容を検討する。
- (2) プログラムに盛り込んだ内容が多かった。手遊び歌はもう少し少なくし、親が覚えれるように何回もくり返すようにするなど工夫が必要である。
- (3) リーダー役の教員が絵本読みの手本を示したのは、親が真似しやすくなるのでよかった。
- (4) 休憩を途中に入れたのはよかった。トイレや水分が必要である。次回のプログラムも途中休憩を入れるようにする。
- (5) 受付開始から始まるまでの参加者の時間の過ごし方を検討する。
例えば、準備した絵本を親子で見ってもらう時間にしたり、養育者のリクエスト、絵本の読み方の相談に乗る時間にするなど。
- (6) お茶などの水分は参加者が持参するよう案内していたが、忘れた方もおられたので大学の方でも準備しておいた方がよい。
- (7) 食事をしているお子さんがいた。今後、保護者の方に飲み物以外は持参しないように呼びかける。
- (8) 会場と受付の連携を密にする。
- (9) 部屋の間仕切り用のパーテンションの隙間に入るお子さんが何人かいた。入れな

いようにするか、注意をきちんと事前に行う。

- (10) 親同士のワークショップという形式も今後検討する。

3.6 参加者のアンケート結果

アンケートは資料 1 を参照。結果は以下の通りであった。

- ・参加者全員からアンケートを回収した。（9 名）
- ・取り組み内容に関しては、参加者全員がよかったと回答。
- ・取り組みを知ったきっかけは、知人（4 名）、ポスター（2 名）であった。
→ 昨年度の取り組みによって、子育て支援の企画が地域に少しづつ浸透してきている。
- ・今後取り上げて欲しい企画
身体を動かす遊び（4 名）、絵本 2 名、歌遊び、おもちゃ遊びなど各 1 名。その他親子料理という意見も 1 名あった。
- ・今後の取り組みでおやつを希望される方が 2 名いた。
- ・今回は駐車場のスペースに問題はなかった。
- ・次回の案内を希望されている方は、9 人中 8 名であった。

4 第 2 回公開講座「子育て支援」—いっしょにあそぼう—の取り組みについて

4.1 第 2 回公開講座のプログラム

第 2 回 8 月21日（水）のプログラムは基本的には第 1 回と同様である。

プログラム実施にあたって、手遊び歌は同じ曲をくりかえし行い、親と子どもが覚えることができるように配慮した。

第 2 回目の絵本は、子どもが親しみを持てる

ように、子どもの好きなキャラクターであるノントン絵本を使った。ノントン絵本は、年少児でも楽しめる簡単なストーリーで、場面の繰り返しが多いという利点があった。

4.2 実施場所、実施時間

本学2号館1階集団療法室、13時30分～15時

4.3 参加者数

18組36名（大人18名、子ども18名）

4.4 実施後の反省

第2回目のプログラム実施後の反省会で出た意見は以下の通りである。

- (1) プログラムはほとんどの参加者から喜ばれている。
- (2) 絵本を読んでもらう親選びは、突然お願いするのではなく、心の準備もあるので早めをお願いした方がよい。
- (3) 手遊び歌は、子どもの様子も見ながらもとゆったりしたペースで何度もくり返した方がよい。
- (4) 休憩時間は親への個別指導や相談に乗れる時間として活用することを検討する。
- (5) 子どもが楽しんで遊ぶ姿を見て、子育てに役立つ生きた知識を参加者が得ていることから、子育て支援プログラムの目的が達成されつつある。

4.5 参加者のアンケート結果

アンケートは資料1を参照。結果は以下の通りであった。

- ・参加者全員からアンケートを回収した。(18名)
- ・取り組み内容に関しては、よかった(16名)、どちらともいえない(2名)、よくなかった(0名)で、参加者のほとんどに満足していただける内容であった。

- ・取り組みを知ったきっかけは、知人(4名)、施設・学校等の先生の紹介(3名)、ポスター(1名)、その他9名(内訳:郵送の案内2名、案内メール2名、公民館3名、大学HP2名)であった。前回よりもさらに、子育て支援の企画が地域に浸透してきていることを示す結果が得られた。

- ・今後取り上げて欲しい企画

子ども同士のトラブルについての解決法の話(1名)、今回のような手遊びや身体を使った遊び(1名)、0歳児でも楽しめる遊び、戸外遊び(2名)、室内遊び用の道具作り(1名)、定期的にして欲しい(1名)狭い場所でも可能な親子体操やストレッチ(1名)、リトミック(1名)などの回答が寄せられた。第1回目と同様、身体を動かす遊びの要望が多かったが、前回よりも幅広い要望が寄せられた。

- ・今回の企画で子育てに参考になったかどうかの問いに対しては、参加者全員から参考になったとの回答が得られた。

参考になった点は、絵本の読み方(9名)、手遊び(7名)、スキンシップ(1名)、身体を動かしてあそぶ大切さ(1名)、子どもと一緒に遊ぶ内容(1名)、絵本に興味があることに気づいた(1名)子どもが大声で笑っていたこと(1名)などである。

- ・次回の案内を希望されている方は、18人中17名であった。

5 第3回公開講座「子育て支援」—いっしょにあそぼう—の取り組みについて

5.1 第3回公開講座のプログラム

プログラムの目的、ねらいは第1回、2回と同様だが、第3回はプログラムの流れを以下のように整理した。

- (1) 最初の手遊びを2曲位に絞り子どもたち

が十分楽しめるように、また参加された親が家庭に帰ってから手遊びを思い出せるようにくり返し何度も行える余裕をプログラムに持たせた。そして時間があれば他の手遊びを最後に紹介することにした。

- (2) 絵本の手本を示した後すぐに参加者に実演してもらうのは無理があるので、休憩時間に親指導を行うことにした。さらに休憩時間中に、参加者の中から絵本の実演をしていただく候補者を事前に選び、声かけをしておけるよう工夫した。

第3回 12月13日(木)に行ったプログラムは以下の通りである。

- (1) はじめのあいさつ
あくしゅでこんにちはこの歌
「てくてく てくてく歩いてきて あくしゅでこんにちは ごきげんいかが」
*リーダーの指導で、振りもつけて子どもと母親が歌う
- (2) 歌ってあそぼう(手遊び)
- 1) あたま かた ひざ ボン(ねらい:ボディイメージ)
- 2) 手をたたきましよう(ねらい:表現)
- (3) 絵本で遊ぼう
- 1) 場面の繰り返しをたのしむ絵本
(使用する絵本) さいとう のぶ作、みね よう原案、リーブル「あっちゃん あがつくたべものあいうえお」
- 2) 簡単なストーリー絵本
(使用する絵本) なかの ひろたか作・絵、福音館「ぞうくんのさんぽ」
*先にリーダーが読みの手本を示す。取り上げるのは「あいうえお」の部分。
- (3) 休憩

- (4) 絵本タイム(お母さんに読んでもらおう)
<読み方のアドバイス>

- 1) 恥ずかしがらずに、子どもの頃に戻ったかのような気持ちで読む。
2) ゆっくり、楽しく読むのが最大のコツ。
3) 本読みはうまいへたは関係ない。それぞれの読み方の個性があってよい。

- (5) 身体を動かしたり、遊んだりしよう

- 1) リトミック遊び
①「カメ」(ねらい:四ツバイ移動)
②「ライオン」(ねらい:高バイ移動)
③「トンボ」(ねらい:ストップモーション)

- 2) 手遊び歌

- ①大きなくりの木の下で(ねらい:動作模倣)

- ②やまごやいっけん(ねらい:動作模倣)

- ③一本橋こちょこちょ(ねらい:感覚遊び)

- (6) おわりのあいさつ(あくしゅでこんにちはこの歌)

「てくてく てくてく歩いてきて あくしゅで さようなら またまた あした」

5.2 実施場所、実施時間

本学2号館1階集団療法室、13時30分~15時

5.3 参加者数

18組38名(大人18名、子ども20名)

5.4 実施後の反省

第3回目のプログラム実施後の反省会で出た意見は以下の通りである。

- (1) 人数が多く、就学児も参加しているためプログラムのレベルを設定することが難しい。
- (2) 始まるまでの間、受付に時間がかかるので学生ボランティアも含め体制強化が必要である。
- (3) プログラム実施中も安全対策のため集団

療法室の外にも要員確保が必要である。

- (4) 親指導のプログラムを今後も研究する必要がある。

6 終わりに

昨年に引き続き、公開講座「子育て支援」—いっしょにあそぼう—の取り組みを4回実施し、今年度の企画すべてを終了した。2年に及ぶ取り組みの中で、子育て支援の取り組みが地域に定着し、もっと回数を多くして欲しいなどの声も多数寄せられるようになった。内容的には、親指導をさらに充実させることなど、今後に向けた課題が残されている。本学の取り組みは始まったばかりであり、地域の期待からすればまだまだ取り組みの規模も小さく今後の発展が望まれる。地域の子育ての支援センターとし

て、父母の子育てを応援する取り組みは、今後ますます重要になってくる。次年度も継続して「地域の子育て支援」を行っていきたいと考えている。

謝辞

公開講座「子育て支援」—いっしょにあそぼう—の企画を実施する上で多大なるご協力をいただきました、貝塚市の教育・福祉担当課、貝塚市子育て支援センター、貝塚市幼児教室、各公民館の関係者の方々にお礼を申し上げます。

また、公開講座の運営にあたりご協力を賜りました、河崎茂理事長、河崎建人副理事長、上好学長、吉村貴子講師に厚く御礼申し上げます。そしてボランティアとして参加した本学学生有志諸君に感謝いたします。

